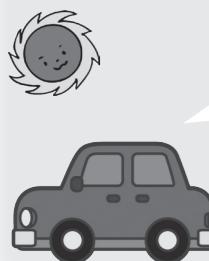


危険！ 子どもを放置しないで！

乳幼児は自分の力で移動することができないので、「少しの時間だから」「寝ているから」と放置することは、とても危険です。

特に、車内に置き去りにすることは、絶対にやめましょう！！



炎天下の車内の温度は、短時間で上昇します。
チャイルドシートにも熱がこもります。
乗る前に車を少し冷やす、保冷剤を活用するなどして、少しでも温度を下げるようにならうましょう。

通学中も、熱中症予防！

町では、町立の小中学校の児童・生徒全員に、「冷却タオル」を1人2枚ずつ配布します。

これは、炎天下での通学における熱中症の予防を図るもので



熱中症の症状と対処方法

【熱中症になったときには…】

症 状

【Ⅰ度】

めまい・たちくらみ
筋肉痛・汗が止まらない

【Ⅱ度】

頭痛・吐き気
体がだるい（倦怠感）
虚脱感

【Ⅲ度】

意識がない・けいれん
体温が高い
呼びかけに対し返事がおかしい
まっすぐに歩けない
走れない

対処方法

涼しいところで一休み
冷やした水分・塩分を補給
誰かが見守り、良くななければ病院へ

Ⅰ度の処置に加え
服をゆるめ、積極的に体を冷やしましょう
(あおぐ、氷のうをあてる、等)



救急車を呼んで病院へ搬送しましょう

周りの人が熱中症になってしまったら…
落ち着いて、状況を確かめて対処しましょう。
最初の処置が肝心です。

● こんな様子が見られたら、 急いで病院へ！！

- 唇や皮膚が力サカサしている
- おしっこが普段よりも少ない
- 暑いのに汗をかいていない
- 顔色が赤い、または青白い
- 抱っこをすると体がほてっている
- 一日中、ウトウトしている
- ぐったりしている

こんな時は救急車！
★39℃以上の熱がある
★けいれんしている
★意識がない
★水を全く飲まない



「暑さ指数」に注目しましょう！

暑さ指数(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目し、人体の熱収支に与える影響の大きい以下の3つを取り入れた指標です。単位は気温と同じ摂氏度(℃)ですが、その値は気温とは異なります。

①湿度 ②日射・輻射など周辺の熱環境 ③気温
各地における暑さ指数の値は、「環境省 热中症予防情報サイト」で確認できます。

【例】日時：令和2年6月15日(月)午後3時 場所：熊谷
天気：くもり 気温：33.5°C 湿度：46%

暑さ指数：**29.8°C(厳重警戒)**

●日常生活における指針

暑さ指数(WBGT)	注意すべき生活活動の目安
危険(31°C以上)	すべての生活活動
厳重警戒(28°C以上31°C未満)	中等度以上の生活活動
警戒(25°C以上28°C未満)	強い生活活動
注意(25°C未満)	